

桐生西ロータリークラブ週報

2008-09年度RIテーマ

李東建(Dong Kurn Lee)RI会長 夢をかたちに



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi
 会長 田崎 武夫 クラブ会報・雑誌委員長 片貝 良一
 幹事 栗原 幸三 委員 星野 幸男

No. 1727

2009年6月19日発行

第1832例会 (2009・6・12) 報告 (禁煙例会)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 点 鐘 | 7. 食 事 |
| 2. ローターソング | 8. 委員会報告 |
| 3. 出席100%表彰、誕生・結婚祝い | 9. タイ・チェンマイ訪問報告 |
| 4. 会長報告 | 10. 会員卓話 小林恵司君、稲森幸雄君 |
| 5. 幹事報告 | 11. 点 鐘 |
| 6. 乾 杯 | |
- 例会終了後定例理事会開催

◆出席100%表彰

(9年)
坪井良行君



◆誕生祝い



齋藤憲一君、稲森幸雄君、東郷庸史君、符波明道君

◆結婚祝い

該当者無し

◆会長報告

田崎会長

- 去る5日の早朝清掃には、多数の方にご参加頂きありがとうございました。この日私と江原副会長、家住国際奉仕委員長の3名は、チェンマイの贈呈式に出席して参りました。後程、家住委員長にパワーポイントで詳しい報告をして頂きます。
- 松倉ガバナーとガバナー指名委員長の森田パストガバナーの連名で、2010-11年度ガバナーノミニに前橋西RCの福田一良君を指名したとの報告が届きました。
- 5月24日(日)に地区茶の湯研修会が松倉ガバナーのお寺『光厳寺』で行われ、当クラブ茶の湯同好会のメンバーが参加されました。非常に立派なお寺だそ

うで、詳しくは本日の会報をご覧ください。

- 31日(日)に向田副幹事と一緒に識字率向上セミナーに出席して参りましたが、その席で松倉ガバナーから今年度の記念品として、ロータリー文庫の名著として定評のある『ロータリー・モザイク』と『ロータリーの理想と友愛』の本2冊を頂戴して参りました。
- 次週のさよなら例会に、4月から世話クラブとなった米山奨学生アクラミ・アリレザ君が、初めて例会に出席され、ご挨拶されることになっております。また、6日(土)に開催された米山校友会総会にも出席されたそうです。
- 6日(土)に次年度の会員増強セミナーが伊勢崎で開催され、片貝会長ノミニと次年度会員増強委員長の塚本会員が出席されました。また当クラブが第2分区-Aを代表してクラブ会員の現状について発表を行ったそうです。
- 鈴木理之会員が入院されており、8日(月)に私と幹事でお見舞いに行って参りました。間もなく退院されるとの事です。

◆幹事報告

栗原幹事

- ◇本日は禁煙例会です。
- ◇本日例会終了後1F洋間にて理事会を行います。
- ◇ガバナー月信6月号が配信されました。(各テーブルに配布)
(下井田地区IA委員長のインターアクト受入事業報告掲載)
- ◇例会前に流してした音楽は『西クラブの歌』です。これは東京西RCの物故会員藤山一郎氏が作られたロータリーソングで全国の西RCに広めたいということで、CDと楽譜、歌詞を送って下さいました。
- ◇6月15日(月)事務局はお休みとなります。
- ◇下記のものが届いております。(各テーブルに配布)
 - ・群馬県立女子大より「少子化問題を巡って」のご案内
 - ・懶生産技術より「ガイドブックvol.7」と「ロボットミュージアムのご案内」

◇例会変更のお知らせ

高崎東RC 6/18,6/25(休) 碓氷安中RC 6/11,6/25
前橋RC 6/2,6/9,6/16(休),6/23,6/30

◇クラブ会報が到着しています

桐生RC 6/1,6/8 桐生南RC 5/21,5/27,6/3
桐生赤城RC 5/19,6/2

◆乾杯

斎藤会員



私もいつの間にか85才になり、今まで何をしてきたのだろうと思います。そこで中国の故事『邯鄲の夢』を思い出しました。官吏の登用試験に落ち落胆している青年に道士が枕を貸して、そこでみた夢の話です。青年は人生の栄枯盛衰全てを見て、人生を悟り、欲を払うというお話です。皆さんも楽しく毎日を送り、目前の一瞬一瞬を大切に生きて頂きたいと思えます。それでは皆様のお幸せを願って乾杯!!

◆食事メニュー

1219キロカロリー

カジキマグロワイン蒸し、豆腐とトマトサラダ、白飯、根菜と玉子のスープ、一口小鉢、香の物、本日のデザート

◆委員会報告

□出席委員会

奥村委員

総数53名(免除者8名の内2名出席の為6名を除く)
出席率対象者47名、出席率対象者出席人数37名
欠席者10名(内前メイク7名) 出席率93.62%
前々例会修正出席率93.75% (最終欠席者3名)

□ニコニコBOX委員会

花房委員長

卓話をさせて戴きます。誕生祝有難うございます 稲森君
小林さん、稲森さん、卓話を楽しみにしています

乾君、近藤君

出席100%表彰、誕生・結婚祝の皆様おめでとうござい
ます

誕生祝いを受けて 栗原君
会長、幹事お疲れ様でした 斎藤君
会員の皆様のご協力により成功の内にWCS事業が 高森君
完了しました 家住君

田崎会長、家住さん、チェンマイ訪問でお世話になり
ました 江原君

過日の早朝清掃ではお世話になりました 正田君

親睦行事に皆様のご協力に感謝 須田君
年末調整 武井君

月・周回観測衛星「かぐや」無事任務終了。月に落下しま
した 櫻木君

□ロータリー財団委員会

藍原次年度委員長

誕生祝ありがとうございます 稲森君

タイ・チェンマイ贈呈式お疲れ様でした 栗原君

田崎会長、栗原幹事お疲れ様でした 新木君、霜村君

一年間に感謝して、ありがとうございます 江原君

過日の早朝清掃ではお世話になりました 正田君

親睦行事に皆様のご協力に感謝します 須田君

年末調整 藍原君

一年間リサイクル募金へのご協力ありがとうございました 船戸君

船戸さん手作りジャム美味しかったです 花房君

□米山奨学委員会

高森委員

小林さん、稲森さん、卓話を楽しみにしています

栗原君、近藤君

ハッピーバースデー

東郷君

田崎会長、栗原幹事お疲れ様でした 新木君、高森君

田崎会長、江原副会長、家住国際奉仕委員長、タイ訪問

お疲れ様でした 花房君

過日の早朝清掃ではお世話になりました 正田君

親睦行事に皆様のご協力に感謝 須田君

年末調整 斎藤君、武井君、藍原君

米山BOX拠金一年間ありがとうございました 霜村君

雨の日も曇りの日も暖かい日も寒い日も今日は晴天

です 江原君

一年間リサイクル募金へのご協力ありがとうございました 船戸君

□副幹事報告

向田副幹事

元R財団奨学生の遠藤瑞香さんのピアノリサイタルが7月26日(日)童謡ふるさと館で午後2時半開演で行われます。チケット前売り2千円がございまして、ご購入お願い致します。

水の恵みに感謝

入梅の時候です。入梅、即ち雨の季節。

同じ水でも、川や海ならば喜ばしいのに、雨となれば疎ましく思いがちです。

しかしながら、「干天の慈雨」と言うよう、天から頂戴する水は大地に染み込んで生物を育み、様々な恵みを私たちに与えてくれます。近年、アスファルト舗装された道



では、雨水は地面と触れ合う暇もなく、直ちに側道に流れていってしまうのはもったいないような気がいたします。

私たちが長年の慣れや油断の中で、自分の心をアスファルトで覆っていないでしょうか。

各々が自分の考えを述べることに熱心なあまり、折角のよい意見やさまざまな考えを聞き流してしまう“一方通行”がまかり通っています。

人と人が出会い、言葉を交わすことの繰り返しから、私たちは色々なことを学ぶことが出来るのです。まず、一盃のお茶を一生懸命正直に点てることによって、心のアスファルトを剥がす努力を続けなければなりません。それが、「相手の立場に立つ」という本来の意味に近付くこととなります。

お茶を点てる時、柄杓いっぱい汲み上げた水は、茶碗に半分注いだ後、釜に戻します。そこには、天から頂戴した水を源にお返しして感謝するという気持ちが入っています。自然の恵みは無限のものではありません。有限であると意識することから、全てのものに対する謙虚な心は生まれてくるのだと思います。

(桐生西RC茶の湯同好会一同)

(株) モ ナ ミ

代表取締役 横塚直人

みどり市笠懸町阿左美698

TEL 0277-76-7676

会 員 卓 話



小林 恵司 君
(経営コンサルタント)

「桐生西RCに入会して」

私は昭和31年に桐生市東2丁目で生まれました。養泉寺というお寺があるのですが、その斜め前になります。結婚後4年程伊勢崎市に住んでおりましたが、其れ以外はずっと現在の所に住んでおります。出身中学校は桐生北中で、会員の霜村さんが先輩で、向田さんが後輩になります。家族構成は私の両親と、今年銀婚式を迎えました妻と、この春群大を卒業して医師として第1歩を歩き始めたばかりの娘と、高校生の息子がおります。

勤務先は、向田会員と同じ会計事務所でございます。今現在は色々な会社を興しまして8社ございます。私は今、相続税の申告以外、税務業務は殆ど行っておりません。他の新しく始まった仕事を少しずつ行っております。その中で最近よくやっておりますのが『M&A』で、会社の合併や分社、吸収などの仕事です。他には相続対策を中心に力を入れております。

私の仕事で恵まれておりますのは、日々会社の経営者であるお客様とお話をさせて頂ける機会が非常に多いということです。そういう意味で大変勉強になります。よその会社で困っている問題点を、違う会社でヒントをもらって何とか解決出来たことが多々あります。

今回桐生西RCに入会させて頂くにあたり、職業分類を経営コンサルタントとさせて頂きましたのは、その様な理由からです。

最後に、桐生西クラブ入会のきっかけを作って頂きました根本会員には心より感謝申し上げ、また快く入会を許可して下さいました会員皆様に厚く御礼申し上げます。

理事会報告 6月12日

1. 鈴木理之会員へ病見舞い(慶弔規定通り)
2. 5月11日ぐんま昆虫の森へ山ツツジ30本寄贈
田崎会長、江原副会長、栗原幹事出席
3. 5月29日下井田年度親睦委員会開催
4. 5月31日識字率向上セミナーに矢野ゾーン・コーディネーター、
田崎会長、向田副幹事出席
5. 6月4～7日チェンマイ訪問 パン・ラク・パン学校で贈呈式
田崎会長、江原副会長、家住国際奉仕委員長出席
6. 6月5日親睦委員会開催
7. 6月6日次年度会員増強セミナーに
片貝会長パニー、塚本次年度会員増強委員長出席
8. 6月8日町田G補佐による桐生5RC会長幹事会開催
9. 6月16日次年度桐生5RC会長幹事会開催
10. 6月18日下井田年度理事会開催
11. 6月19日さよなら例会に星野名誉会員と米山奨学生出席
12. 6月23日パスト幹事会開催
13. 6月28日地区合同連絡会議に下井田地区IA委員長出席
14. 春の家族会日帰り旅行決算承認
15. 櫻木進君の退会を承認(6/16付文書で確認、今期末で退会)



稲森 幸雄 君
(石油液化ガス販売製造)

「結婚の歴史」

次の卓話では、どんな話をしようかと考えておりましたが、なかなか良い題材が見つからずに数ヶ月経過してしまいました。ところが、昨年11月図書館であるデータベースを調べているうちに日本には、古代から現在に至るまで世界に誇れる文学遺産という至宝がある。万世の後まで伝えたいと奈良時代に、話は少々脱線しますが当時名だたるプレイボーイで、坂上大嬢(さかのうえのおおいらつめ 後の正妻)や笠女郎(かさのいらつめ)、紀女郎(きのいらつめ)などと相聞(そうもん)を交わす(男女の恋を詠みあう)多彩な女性関係があった大伴宿禰家持(おおとものすくねやかもち)が歌集20巻、歌数4500首をまとめた《万葉集》の中には昭和20年以前に生まれた大半の人が知っていると思われる(新編国家大観)番号4119番の大伴宿禰家持作といわれる《海行かば》の原歌が入っています。これを、昭和12年に《出征兵士を送る歌》としてNHKが信時潔(のぶとき・きよし)に作曲させたものがいまでも記録に残されています。

それは、

海行かば 水漬く屍(かばね)
山行かば 草生(くさむ)す屍
大君(おおきみ)の辺(へ)にこそ死なめ
かへりみはせじ

であります。また、NHKの教養番組で司会は国井雅比古アナと、「日めくり万葉集」のナレーションを担当する女優の檀ふみ(作家檀一雄の長女、慶大経済卒)、ゲストには、作家・林望、漫画家・倉田真由美等が出演した「万葉集・特集」が放送されたり、教育テレビで毎週月曜～金曜、午前5:00～5:05に「日めくり万葉集」というタイトルで檀ふみの司会、監修藤原茂樹(慶大教授)および坂本信幸(奈良女子大教授)の構成で「一日一首」、さまざまな分野で活躍する方々が選者となり、それぞれ「わが心の万葉集」を選び歌への熱い思いを語っております。このように今でも(万葉集)に対する日本人の関心が高く現在の人々と同様に万葉人にも相聞の交わりがあることから推察して、男女同権であったように見受けられます。また、同じく奈良時代の元明天皇に献上されたという、諸氏族のもっている帝紀および本辞を正しく伝えるために作成された(古事記)や神代から第41代持統天皇までを漢文の編年体で記した全30巻の歴史書である(日本書紀)、徒然草、平家物語、から始まって島崎藤村、萩原朔太郎にいたるまで、文学王国日本はまさに宝物の山であると専門家は話題にしております。かつて日本史で(さわり)程度は習っていたものの、私は生来の勉強嫌いで恥ずかしながら熟読しておりませんが我々が生を受け活動している現在まで、そうした文化の中に生き生きとした(結婚の歴史)が存在しているはずだと気づき、この原稿の末尾に参考資料として掲載しましたが、図書館にある数冊と私が所有している本によりこの原稿を纏めました。当然ながら本にはそれぞれの特徴があり、ある部分では極めて刺激的でズバリ表現しているのもありましたが、刺激的な表現は、必ずしも私の本意とするところではありま

せんので、その部分は柔らかい表現の本を採用いたしました。

しかし、(講釈師 見てきたような嘘をつく) や (講釈師 扇で嘘を叩きだし) は、初代宝井馬琴作の川柳だそうですが、2万年前から実際のところ、この目で確認しているわけではなく、これが、真実の古典であることを前提として、しかも明治時代以降特に政治、貿易、証券等あらゆる分野にバイリンガル(2カ国語に堪能な人)の人が必要になってきた今日(結婚観)が当然のように変わりつつあり、(単一民族)として培われた結婚の歴史は、今後、少しずつ変容していくのかなと実感しつつ原始時代の共食共婚から一夫一婦制まで(結婚の歴史)について話を進めたいと思います。

今日の一夫一婦制が定着したのは明治時代になってからのことでもあります。それでは、結婚の形はどのように変わってきたのかを簡単にいいますと、2万年以上前の日本は気温が低く、また、海面が今より低いため日本列島は大陸とじつづきで、人が住めなかったがその後今から16,500年~3,000年前までの縄文時代が日本人のルーツで原始時代といわれております。その原始時代の集団婚から男女の自由な妻問婚に移り、夫が女の家に入る婿取り婚、女が夫の家に入る嫁取婚、そして今日の一夫一婦制になったのです。

原始時代には小人数の群れで狩猟生活をし放浪していたのですが、その頃は人間も他の動物と同様に発情期をもっていて、そのシーズンになるとその族内で男女がきままに結婚する共同婚が行われていました。

それから、農耕生産が進歩して平地に定住するようになると、それらの群れは集落をつくったのです。集落は、共同の神のもとに統制された共同生活を営むようになったのです。やがて女性の発情期になると共同広場に祭壇をつくり、その神前で食を共にして兄弟姉妹(はらから)になり、他の群の男と他の群の女が自由に神前集団婚を行い異族間の融和と同族の結びを固めたのです。「人妻に吾もまじらむ、吾妻にひと言問へ(こととへ)」という、嬬歌会(かがい)の歌があります。嬬歌会とは、歌垣(うたがき)ともいい、求愛の歌の掛け合いのことでもあります。このように原始時代の共同婚には、異族間の平和の道をつくり、村づくり、国づくりに通ずる重要な意味があったのです。また、大国主命については皆さんご存知のとうり、いわずと知れた日本の神様のなかのスーパースターで、出雲大社の縁結びの神様です。素盞鳴尊(スサウマコト)の六世の孫で、国づくりの神、農業の神、商業の神、医療の神としてあがめられています。しかし、昔から「英雄色を好む」といわれますが、大国主命は大変な艶福家でした。記紀神話においてもすこぶるつきの美男で、「その御子すべて一百八十一(モモツヤハシラアマリヒトハシラ)の神ます」と日本書紀に記されております。多淫、多産な愛欲神としての姿がここにあり、それが出雲の縁結びの神として祀られる所以であります。大国主命にまつわる神話のうちで、もっとも有名なのは因幡の白兔の話だろうと思います。本土の因幡国(鳥取県東部白兔海岸)に渡りたいと思った隠岐島に住んでいた兔が本土に渡ってきたところで鰐に丸裸にされ、その痛みに耐えかねて泣きむせぶ兔に近づいたのが、八十神(ヤソガミ)と呼ばれる神でした。この神は大変残酷な神だったようで、兔に「海水に浸ればたちまちのうちに治るだろう」と教えました。人間ならば一瞬で嘘だと見抜けたでしょうが、そこは海を知らない兔のこと、さっそく海に浸たってみると、全身が焼け付くような痛みに襲われた。

もはや泣き声も出ず、必死で陸地が上がって倒れ伏しているところを通りかかった大国主命は、兔の体を真水で洗い清めてやり、さらに蒲の花にくるまって身を癒すことを教え兔は回復しました。この一部始終を眺めていたのがヤガミヒメで、八十神がかねてから求婚していた女性で、こんなところをみてしまつては八十神よりも大国主命のほうがずっといいと思ったヤガミヒメは、大国主命に求愛し認められて身を寄せたそうです。このように大国主命の国づくりの神話が妻問(嬬歌会)に始まっているのも、同様な意味があるからです。氏族の神前集団婚は、個々の男女間の自由な結婚ではなかったが、妻問婚になると特定の男が女のもとに通ったり、滞在したりすることになります。男が所属する氏族と女の所属する氏族が違つていくため、男が通わなくなつたり、女が男を門から追掃することによって、簡単に離婚が成立したのです。さて、妻問婚では求愛を夜這いといったが女が許せばその場で結婚が成立したのです。聞名(もんみょう)というのも夜這い的一种であります。またそれを例示すると日本書紀および古事記では、安康天皇が山宮に行啓されて皇后にひそかに私は七歳の眉輪王(まよわのおおきみ)を恐れていると仰せられたのを楼の下で遊んでいた眉輪王(まよわのおおきみ)がその話を全部聞いてしまいました。安康天皇は、皇后のお膝を枕になさつて、昼の酔いでお眠りになつたその時、眉輪王(まよわのおおきみ)後の雄略天皇)は天皇を刺し殺してしまつたその気性の激しいところから天下の人々から「大悪天皇」との謗りを受け、古事記では、妻問の遍歴を重ねる「色好み英雄」に仕立てられた古墳時代(今から1,700年~1,300年前)の第21代雄略天皇が万葉集のはじめに歌つた「この丘に菜摘ます兒、家聞かな、名告げさね(なのらさね)」という歌がありますが、これが聞名(もんみょう)で、これに答えて女が家をつげ、名を名乗れば承諾の意になるのです。その後、成立年は明らかにされていないものの最古の写本は天正年間(安土桃山時代)だという説のほか、通説では平安時代前期だといわれ、なおかつ日本最古の物語と称されている「竹取物語」ができてきます。今は昔、竹をとり、いろいろな用途に使い、暮らしていた竹取の翁(おきな)とその妻の媪(おうな)がいました。ある日、竹取の翁が竹林に出かけてゆくと、根本が光輝いている竹があった。切ってみると、中から3寸ほどの可愛らしい女の子が出てきたので自分たちの子供として育てていました。その子は3ヶ月で年頃の娘になりこの世のものとは思えないほど美しくなつた娘は、「なよ竹のかぐや姫」と名づけられました。世間の男たちは、高貴な人も下層な人も何とかして「かぐや姫」と結婚したいと思ひ竹取の翁の家の周りをうろつく公達は後を絶たず熱意のない者は脱落し最後に残つたのは、好色といわれる5人の公達で夜昼となく通つてきました。そこで翁がかぐや姫に「女は男と結婚するものだ。5人の中から選びなさい」といふと、結婚を嫌がるかぐや姫は、その5人に実現不能なまさに無理難題を課した。石作皇子(いしづくりのみこ)には、仏の御石の鉢、庫持皇子(くらもちのみこ)には蓬萊の玉の枝、右大臣阿倍御主人(あべのみうし)には火鼠の袋、大納言大伴御行(おおとものみゆき)には龍の首の珠、中納言石上麻呂(いそのかみまる)には燕の子安貝をもってこさせるといふものでした。どれも話にしか聞かない珍しい宝ばかりで、手にいれるのは困難で結局誰一人として成功しませんでした。これが失敗はしましたが妻問なのです。

このように氏族の神前共食共婚の集団婚から個人の自由婚である妻問婚になり、貞操感が生まれるのであ

ります。その妻問婚では、夫の家に移り住むまでの期間は短くて2~3ヶ月、長くて数年に及んだものがあるそうです。妻問の期間、生活場所である婚舎も、伊豆諸島を中心に志摩・瀬戸内海沿岸一帯、九州西方離島、奄美、沖縄の地域に分布していたが、明治時代には殆ど見られなくなりました。

また、明治以前の上流社会では、跡取りを誕生させるため妻の他に妾をもつ一夫多妻制(側室制度)が見られるほかに、村落内結婚は見合いのシステムがなく同じ村内でお互いを知っている男女が祭りや夜這いなどを通じて結婚相手を探していたそうであります。なお、冒頭に申し上げたとうり結婚は、単なる男女の結びつきだけだったが、次第に婚礼の形をとるようになります。婚礼は、最初は「露頭」(トコロアラワシ)として発生しました。これは、男が女のもとに通ってきている現場を、女家の人たちが見つけて明らかにし、餅を男に食べさせて、男を女家の一員とする儀式でした。のちにこれは忍び通いの三日目ぐらにするようになったので「三日餅」(ミカノモチヒ)といわれます。いわゆる婿取りの儀式で奈良時代頃一部の農民の間で発生したと考えられています。鎌倉時代になると母系型家族の形が崩れてそれにもなって父権が絶対的なものとなり一部には(嫁取婚)が現れます。室町時代の文献にも“ヨメトリ”“ヨメイリ”の語が見え始めます。江戸時代になりますと、仲人、見合い、なども一部出現します。

ここで話が少々横道にそれますが、日本で最初の新婚旅行をしたのは、幕末に西郷隆盛の勤めで海路鹿児島を訪れ、薩摩藩の家老小松帯刀(こまつ・たてわき)の屋敷に慶応2年(1866年)の3月~4月に滞在し、寺田屋事件で怪我をした腕の療養を兼ねて霧島に遊んだ坂本竜馬と妻おりょうだといわれていますが、その坂本竜馬とおりょうが140年以上前に霧島を訪れてくれたことを記念して、今でも「竜馬ハネムーン・ウォーク in 霧島」として毎年春に2日間にわたってウォーキング大会が開催されています。また、「花は霧島、たばこは国分、燃えてあがるは桜島」(鹿児島民謡オハラ節)に詠われる霧島連山は、春になるとオオヤマレンゲ(モクレン科)の白い花やミヤマキリシマ(ツツジの木)の彩りが麓の高千穂河原から山頂に向かって咲き進み、花、花、花の連続でまるでジュウタンを敷き詰めたかのような素晴らしい光景となります。まさに「花は霧島」です。坂本竜馬夫妻はその時期に訪れていたはずで大変感激したんだろうと思います。また新婚旅行という言葉が普及するのは明治時代の中頃以降とされており、Honey moon は当時、蜜月遊、甘月遊と呼ばれていました。ここで元の話に戻りますが、こうした結婚の歴史も明治時代以降になりますと、

明治31年6月21日法律第9条で制定された民法第732条で(配偶者の在る者は重ねて婚姻することが出来ない)という重婚の禁止と明治40年4月24日法律第45号による刑法第184条の重婚罪が制定され一夫一婦制が確立されたのです。

まとめとして、原始時代の集団婚でも勿論のこと、時代が降って「安土・桃山時代」俗に言う戦国時代を背景としたNHKの大河ドラマの「天・地・人」は、皆さんご存知の天の時、地の利に如かず、地の利は、人の和に如かずの頭文字をとったもので、その出典は、かねてより性善説を唱えていた中国儒教の思想家 孟子だといわれていますが、日本では武田信玄の「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵」が似ていると思われますが、主君に忠義、妻や使用人、部下そしてふるさとをこよなく愛したいわゆる義と愛に生き人の和を大切にしたい一人の武将の人間像を描いたもので、上杉景勝の家臣と

して活躍した名将・知将で名高い直江兼続(1560年「永禄3年」~1620年「元和5年」の60年の生涯)が「愛」とおいう字をあしらった兜で戦場を駆け巡った事実や、更に時代を降って近代社会になった今日でもこの世の生活の中心は「愛」であることに変わりがないと思われませんが、しかし、モノ、カネ等比較にならない裕福な中でのファッションは、目覚しいものがあります。今まで「人間力」や「鈍感力」等の言葉が流行していましたが、昨今では「目力」と「唇力」という言葉が生まれているようです。睫毛が小さく短い日本人女性の目を魅力的に見せる「目力」メイクとしてマスカラという睫毛を濃く長く見せるためのメイク法と相俟ってしかも諸外国との交流の中で「つけ睫毛」が世代を超えてブームが再燃しているようです。そもそも「つけ睫毛」は、最初アメリカからの輸入品で、これをセットすると接着剤が溶けて痛くて目が開けられないため昭和6年にシャンソン歌手の淡谷のり子が糸に自分の髪を切って貼り付け使用したのが始まりだといわれておりますが、こうした目元を一層印象づけるメイク法が流行したのに伴い顔に残るのは唇のメイクだけでこれが昨年秋から更に「唇力」として魅力的なメイクが求められているようです。唇は、乾燥すると、かさつきや血色の悪さがでて健康上は勿論のこと外見上見苦しいのであまり時間がかからず料金が手ごろなことから女性客を中心に「唇エステ」に人気が集まっているようです。

更に今年に入って円高・ウオン安を背景に韓国で、「プチ整形」を受診する日本女性が急増しているようです。治療費が日本の半額の3万円程度で、にきび対策、しわの治療や角質の除去等ができるそうであります。日本人女性の急増には韓国政府の「医療観光」の推進政策が、後押ししているのも原因の一つにあげられているようです。原始時代では、その場その場の体当たりの生活の中で常に男も女もそれぞれの異性に対して魅力的でありたいと工夫していると思われることに比べ、まさに隔世の感があります。

参考資料

大辞林 小学館	三省堂 倉石あつこ 小松和彦 宮田登	公文書院 吉田澄夫編	
読売新聞 至文堂 成美堂出版 新潮文庫 岩波書店 講談社	高群逸枝 実用図解六法 藤原正彦 永六輔 遠藤周作	雄山閣 岩波新書 毎日新聞 筑摩書房 日本放送出版協会	江間務 西郷信綱 水村美苗 火坂雅志

株 藤 井 経 営

取締役部長 **小林 恵 司**

伊勢崎市大手町10-20

TEL 0270-25-7696

《次例会予告》

7月3日(金) 下井田年度初例会

会長・副会長・幹事バッジ引継

クラブフォーラム 理事役員委員長挨拶就任

6月26日(金)は公式休会です

タイ・チェンマイ バン・ラク・パン学校へ机と椅子、教科書贈呈プロジェクト 報告



報告：国際奉仕委員長 家住慧路君

まず、このプロジェクトの始まりについてお話致します。姉妹クラブの釜山新西面RCから、「今年度は桐生西RCをホストとしてマッチング・グラントを行いませんか」という提案を頂きました。

また、昨年5月にチェンマイヘリサイクル自転車の贈呈式に訪問した際、現地のRCとしてお世話頂いたクラブがチェンマイ・ティンタインガムRCで、その時に会長エレクトより次年度に教育的事業を共同で行いたいと要請がありました。そこで、釜山新西面RCにこのプロジェクトを提案しましたところ、快くお受け下さり、総額で122,004パーツを釜山新西面RCと桐生

西RCが61,002パーツ(176,906円)づつ拠出し、チェンマイのバン・ラク・パン学校へ机と椅子99セット、教科書450冊を贈るプロジェクトを行う事になりました。

今回の訪問は、適正に事業が実施されているか確認すると共に、両クラブとの友好を深めるという事でしたが、残念ながら釜山新西面RCは都合により贈呈式には出席されませんでした。

チェンマイ・ティンタインガムRCは創立から16年経過したクラブで、会員数36名で全員が女性です。次年度3360地区のガバナーを輩出されるそうです。

訪問メンバーは田崎会長と江原副会長と私の3名で、元会員の小島定信君がタイ空港から合流して、通訳などお手伝いして下さり大変助かりました。また小島君も何か施したいとの事で、4人で2,000パーツづつ出して合せて合計8,000パーツを学校へ寄付して参りました。それではパワーポイントを使ってご紹介いたします。



空港までお出迎え頂きました



4日夜の歓迎夕食会(中央女性が次年度ガバナー)



贈呈式で記念写真

メンバーは今!! No. 32

新木明夫会員



新木さんは平成8年2月16日に入会し、理事2回、委員長7回、2004～5五十嵐年度の幹事を経験したベテラン会員である。新木さんが特に輝いたのは、当クラブがホストした地区大会2日目の司会役である。子供作文コンクールでの流れるような司会は特筆に値する。その他、IMや30周年記念式典での司会も見事にこなしている。更に松嶋年度の花房幹事の要請で副SAAであった新木さんが毎例会で司会進行を務めたのも印象深い。新木さんは、司会をする時にロータリーの式典の格調を保ちつつ、式典の種類で異なる気配りをする事に努めているようで、従って参加者に感銘を与えるのであろう。

新木さんは、ロータリーはその本質を堅持しつつ、時代に合わせて行くのが良いと思うが、メンバーの誇りが徐々になくなりつつあるのは残念だと話す。入会間もない頃は、食事をもともに喉を通らないくらい例会の格調の高さに緊張していたそうである。その時に堀口さんや鳥嶋さんが声をかけてくれて緊張が和らいだそうで、新入会員の入会時こそ、会員が定着するための声かけのような気配りが必要であると強調した。また、入会時の親睦委員会がロータリーの楽しさを実感できるような委員会であれば、退会はないのではと話した。誠に同感である。新木さんの事業も、本質を変えずに、時代にあった方向を考えて展開しているようで、その順調な業績は同慶に堪えない。

クラブ会報・雑誌委員長 片貝良一



生徒の皆さんから歓迎を受けて



歓迎の踊り



両クラブ会長、感謝状を頂いて



両クラブ会長のバナー交換



校長先生へお土産と寄付8,000パーツを贈呈



田崎会長による除幕式



寄贈した教科書と机と椅子、以前は床に座って勉強していました